資料1

開成町のまちづくり（総合計画）に関する小・中・高生向けアンケート結果報告

簡易版

2023年12月4日

公益財団法人 日本生産性本部

Believe in Progress

目次

調査趣旨・概要 ---- P.2
回答者の属性 ---- P.3
町への愛着（小学生・中学生のみ） ---- P.5
定住意向（小学生・中学生のみ） ---- P.7
どんな施設・機能があったら町に住み続けたいか ---- P.8
生活や自分自身等への満足度 ---- P.9
将来就きたい仕事 ---- P.12
開成町がどんな町になってほしいか ---- P.13
若者のためのまちづくりに必要なこと ---- P.14
自分が町長になったら取り組みたいこと（中学生・高校生のみ） ---- P.15
【総評】アンケート結果から読み取れること ---- P.16

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

調査趣旨・概要

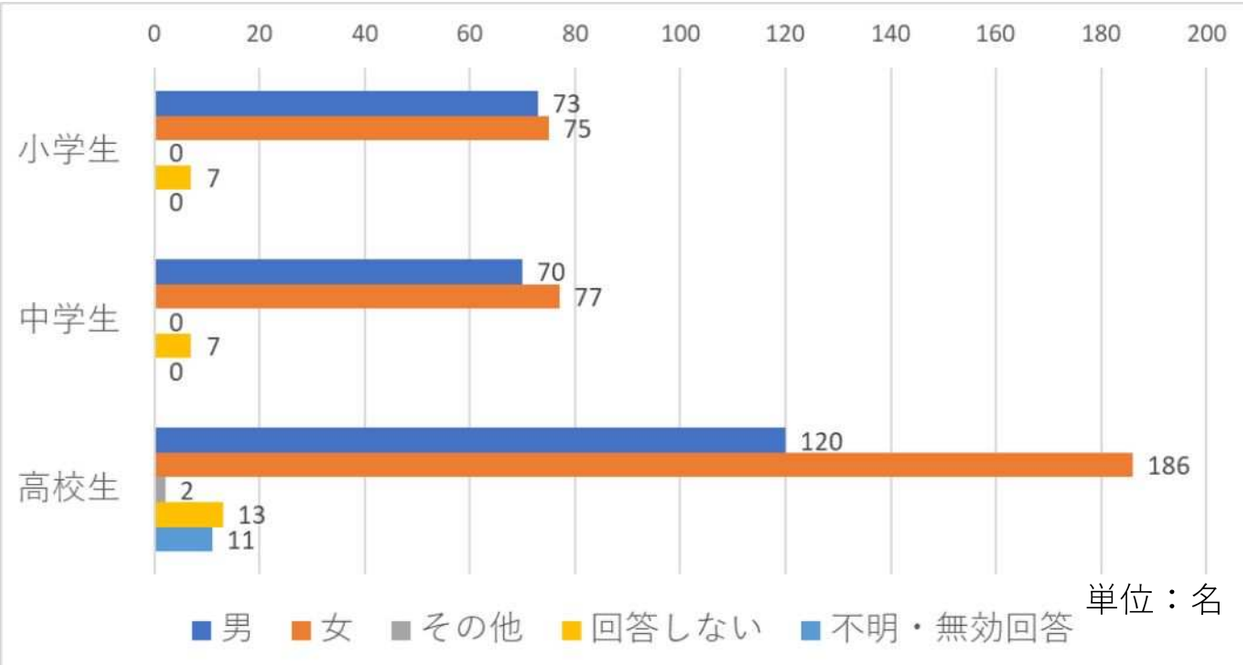
本アンケートは開成町のまちづくり（総合計画）に関する若年層の意識を調査するため、町内の小学生・中学生・高校生に向けてそれぞれ実施した。
調査の実施概要は以下の通り。回答者の属性（性別・居住地等）は次のページに記載する。

	小学生	中学生	高校生
調査対象	町立開成小学校６年生 町立開成南小学校６年生	町立文命中学校３年生	県立吉田島高等学校全学年 （町外在住者を含む）
調査方法	担任の先生を通じて回答用URLを送付し、オンラインで各自回答	担任の先生を通じて回答用URLを送付し、オンラインで各自回答	担任の先生を通じて紙のアンケート用紙を配布
調査期間	23年9月中下旬	23年9月中下旬	23年9月下旬
有効回答数	155名	154名	332名

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

回答者の属性

性別



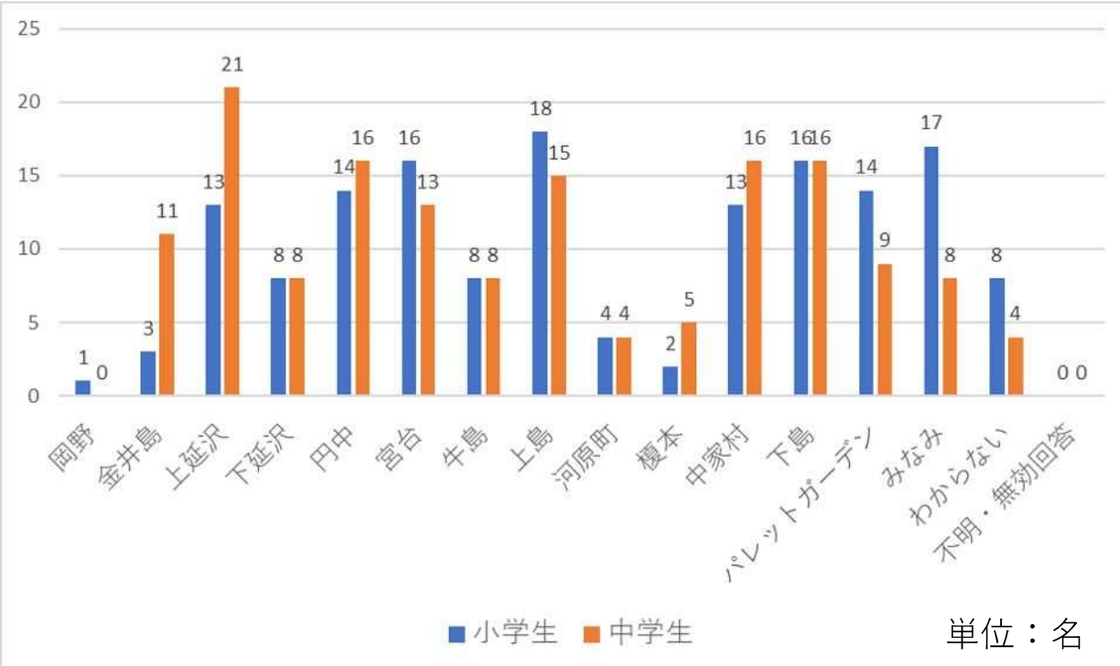
	男	女	その他	回答しない	不明・無効回答
小学生	73	75	0	7	0
中学生	70	77	0	7	0
高校生	120	186	2	13	11

小学生は男73名、女75名、回答しない7名
中学生は男70名、女77名、回答しない7名
高校生は男120名、女186名、その他2名、回答しない13名、不明・無効回答11名となった。高校生向けアンケートは紙記入で回答を収集したため、未記入だった方が一定数存在した。（小学生・中学生はwebアンケートで必須項目としたため、全員から回答を収集できた）

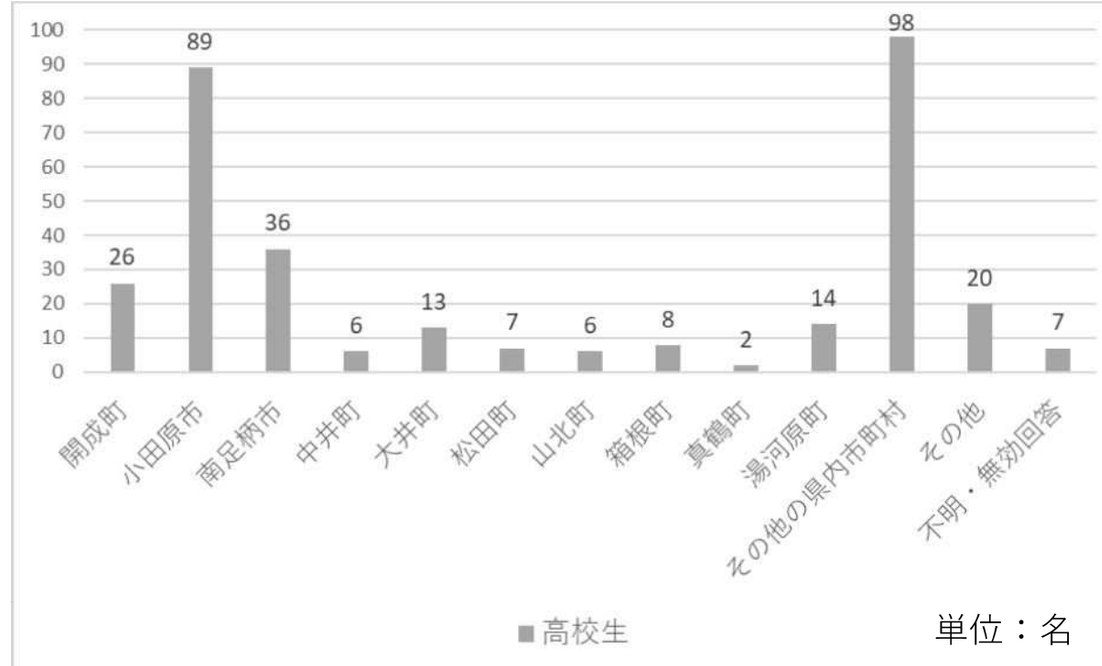
Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

回答者の属性

居住地（小学生・中学生）



居住地（高校生）

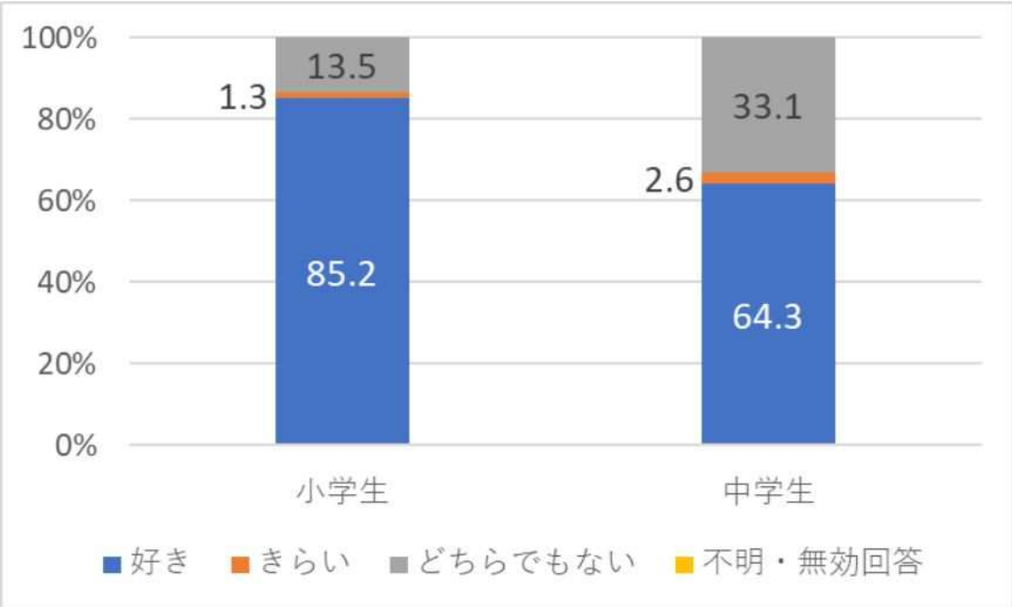


小学生は「上島」に住む方が18名と最も多く、「みなみ」（17名）、「中家村」「下島」（16名）が続いた。
中学生は「上延沢」に住む方が21名と最も多く、「円中」「中家村」「下島」（16名）が続いた。
高校生は学区制ではないため、市町村単位で尋ねる形式とした。判別できる市町村として最も多かったのは「小田原市」（89名）で、「南足柄市」（36名）が続き、「開成町」は26名であった。「その他の県内市町村」は選択肢の中で最も多い98名となり、県外から通っていると思しき「その他」も20名いた。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

町への愛着（小学生・中学生のみ）

Q．あなたは今の開成町が好きですか。



回答実数

	好き	きらい	どちらでもない	不明・無効回答
小学生	132	2	21	0
中学生	99	4	51	0

その理由（自由記述から一部抜粋）

【好き】

・自然が豊かなところ。田舎だけど店がいっぱいあって不便ではない（小学生）
・沢山の人が温かくて、自然がいっぱいだから（小学生）
・田舎モダンな感じが好きだから。あと、紫陽花が綺麗だから（小学生）
・開成町はスーパーも小学校も中学校も高校もあるし、駅もあって急行がとまるし、整備されていて町全体がきれいで住みやすく、小田急線一本で小田原も海老名も新宿も行けるし、町の人もほぼ全員いい人だから（小学生）
・小さい町だから地域の人と仲良くなれる（中学生）
・空気がきれいで自然もあるし開成町に住んでくれる人も増えているから（中学生）
・水が美味く自然が豊か。災害も受けにくくて過ごしやすいところだから（中学生）
・設備などやお祭り事などがとても充実していると思う（中学生）

【きらい・どちらでもない】

・電車などは便利だけど、ずっと遊べるような場所がないから（小学生）
・町が発展しているところは嬉しいけど自然が少なくなっている（小学生）
・自然が多いところは好きだけど、もっと交通の便が良かったり、大きな商業施設があったら便利でいいなと思うことがあるから（中学生）
・基本的に治安が良いけど、夜間にバイクがうるさかったり、公園でのゴミの放棄が最近多い気がします（中学生）

小学生は全体の約9割が「好き」と回答し、「きらい」と回答した人数はごく少数であった。「どちらでもない」は約1割程度であった。
中学生は全体の約6割が「好き」と回答し、「きらい」と回答した人数はごく少数であったが、「どちらでもない」と回答した人が約3割いた。
小学生と中学生の多くが開成町に愛着を抱いているが、成長とともに捉え方に変化が起こっていることが見受けられる。

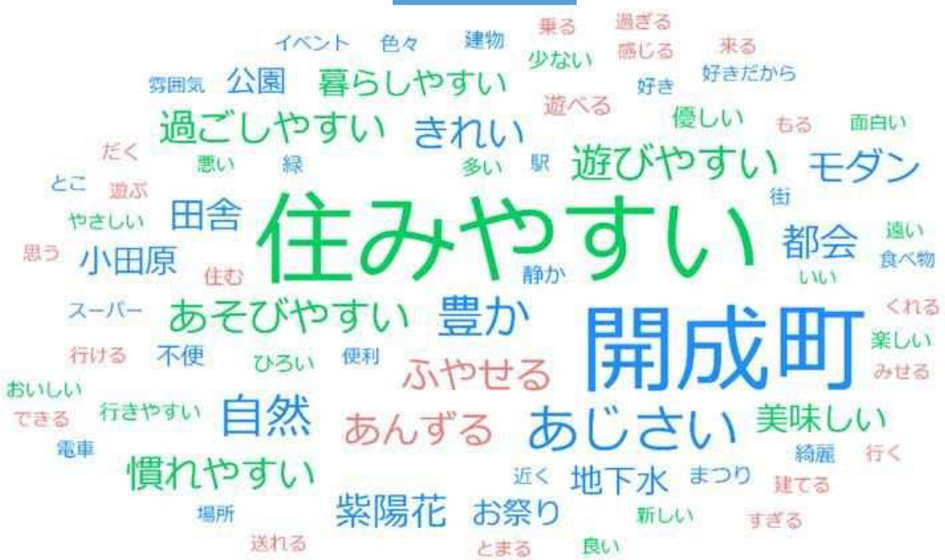
Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

町への愛着（小学生・中学生のみ）　自由記述テキストマイニング

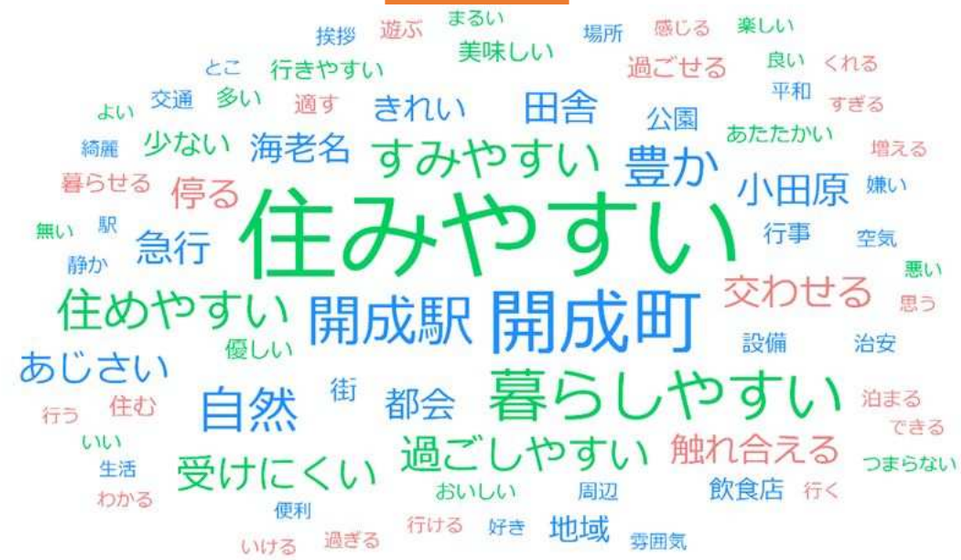
「Q．あなたは今の開成町が好きですか」の設問では、その理由を自由記述形式で併せて尋ねた。
記述内容のテキストマイニングを実施し、ポイントとなる語句が大きくなるよう図で示した。

テキストマイニングとは・・・大量の文章からパターンや関連性を探して、ポイントとなる有用な情報を抽出する手法のこと。頻出度や語句の使われ方の特徴等から算出される。　※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（ https://textmining.userlocal.jp/ ）

小学生



中学生

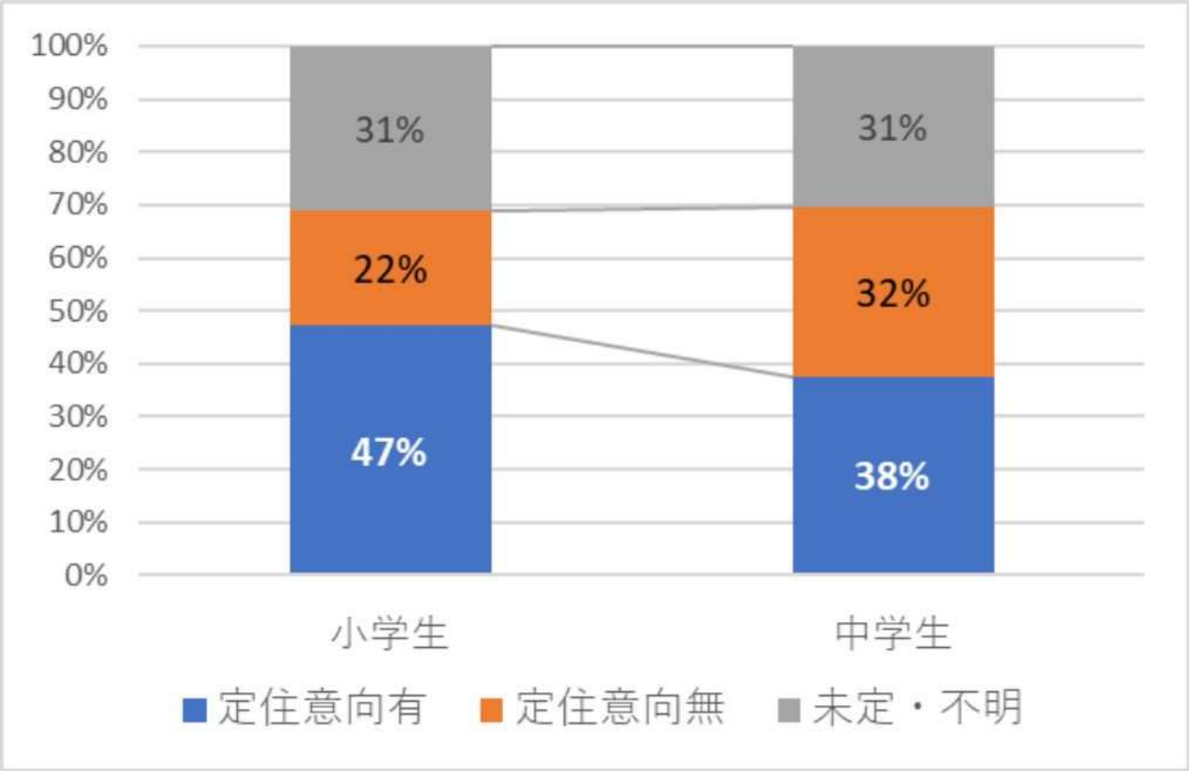


小学生・中学生ともに「住みやすい」「暮らしやすい」といった生活環境に関する単語が最も大きく表示されている。また、「自然」「あじさい」といった自然環境や、「開成駅」「急行」といった交通利便性に関する単語も頻出しており、これらが町の特徴として捉えられている様子が見受けられる。
この結果からは、開成町は「自然が豊富でアクセスも良い住みやすい町」という認識が定着しているといえるだろう。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

定住意向（小学生・中学生のみ）

Q．大人になっても開成町に住み続けたいと思いますか。



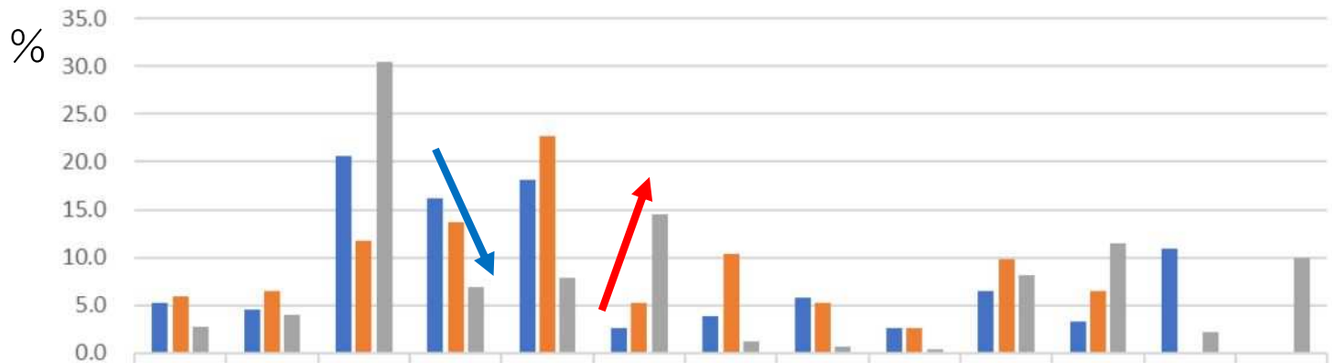
「大人になっても開成町に住み続けたいと思うか」について小学生と中学生それぞれに尋ねた。定住意向の度合に応じた選択肢を用意し、集計時に「定住意向有無」別に分類した。

（選択肢分類の方法）
「ずっと住み続けたい」「一度町を出て、帰ってきたい」→**意向有**
「いずれ町の外に出たい」等→**意向無**
「まだわからない」「その他」→**未定・不明**

小学生では、「定住意向有」が約5割と最も多く、「未定・不明」が約3割で続く結果になった。
中学生では、「定住意向有」が約4割と最も多く、「定住意向無」と「未定・不明」が約3割で続く結果となった。
この結果からは、年代を問わず一定の層は開成町に大人になっても住み続けたい意思を抱く一方、中学生は人間関係が広がって社会の一員として自身の役割や責任、将来の進路やキャリア等についての自覚が芽生える時期であるためか、小学生に比べると中学生の定住意向が減退している傾向が見受けられた。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

どんな施設・機能があったら町に住み続けたいか



	希望の進学先	希望の就職先	買い物などの日常生活の利便性	カフェや飲食店	レジャー施設などの楽しむ場所	交通の利便性	公園などのくつろげる場所	体育館や図書館などの公共施設	医療・福祉サービス	お祭りやイベント	特になし	その他	不明・無効回答
小学生	5.2	4.5	20.6	16.1	18.1	2.6	3.9	5.8	2.6	6.5	3.2	11.0	0.0
中学生	5.8	6.5	11.7	13.6	22.7	5.2	10.4	5.2	2.6	9.7	6.5	0.0	0.0
高校生	2.7	3.9	30.4	6.9	7.8	14.5	1.2	0.6	0.3	8.1	11.4	2.1	9.9

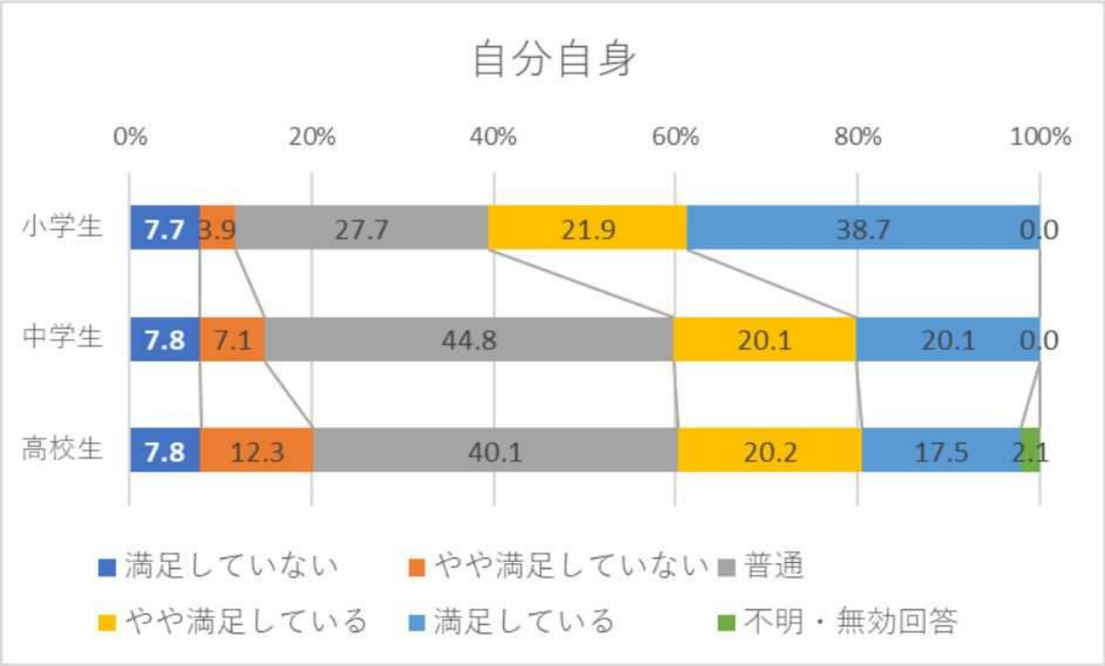
「どんな施設・機能があったら町に住み続けたいか」を小学生・中学生・高校生それぞれに尋ねた。最も重視する項目を１つ選んでもらい、設問ごとの選択割合をグラフに示した。

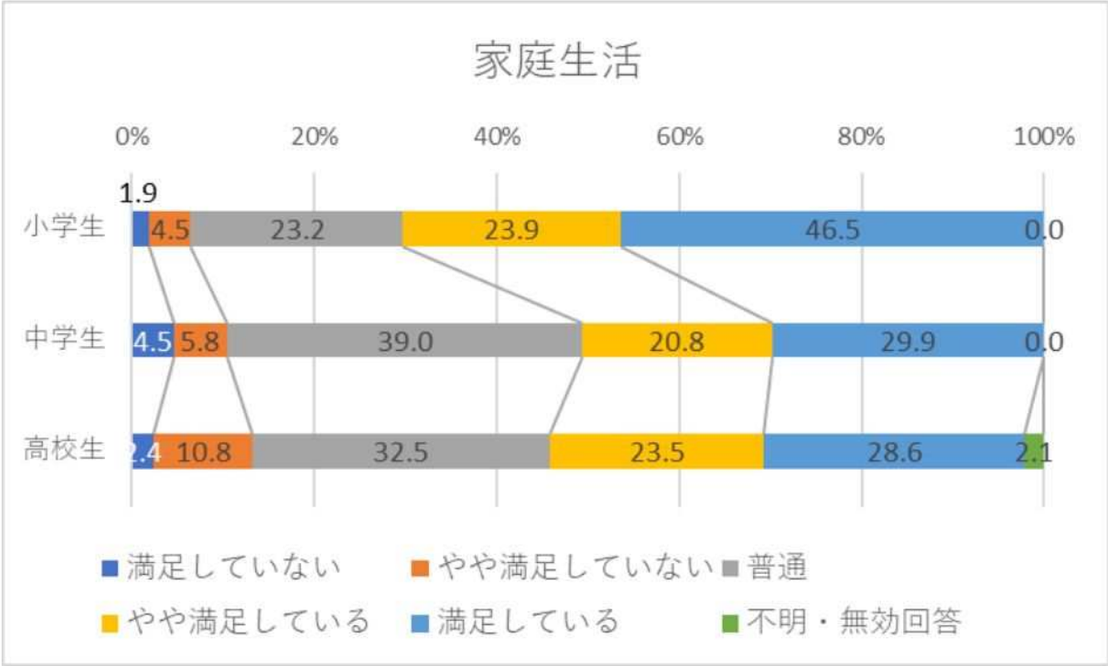
小学生は「買い物などの日常生活の利便性」が唯一2割を超えて最も重視している項目だった。
中学生は「レジャー施設などの楽しむ場所」が唯一2割を超えて最も重視している項目だった。
高校生は「買い物などの日常生活の利便性」が唯一3割を超えて最も重視している項目だった。
いずれの年代においても「買い物」や「レジャー」等の商業施設が重視されているが、成長による行動範囲の拡がりとともに、交通の利便性の重視度が高まっていくことが見受けられた。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

生活や自分自身等への満足度①

小学生・中学生・高校生それぞれに対して生活や自分自身等への満足度を尋ねた。



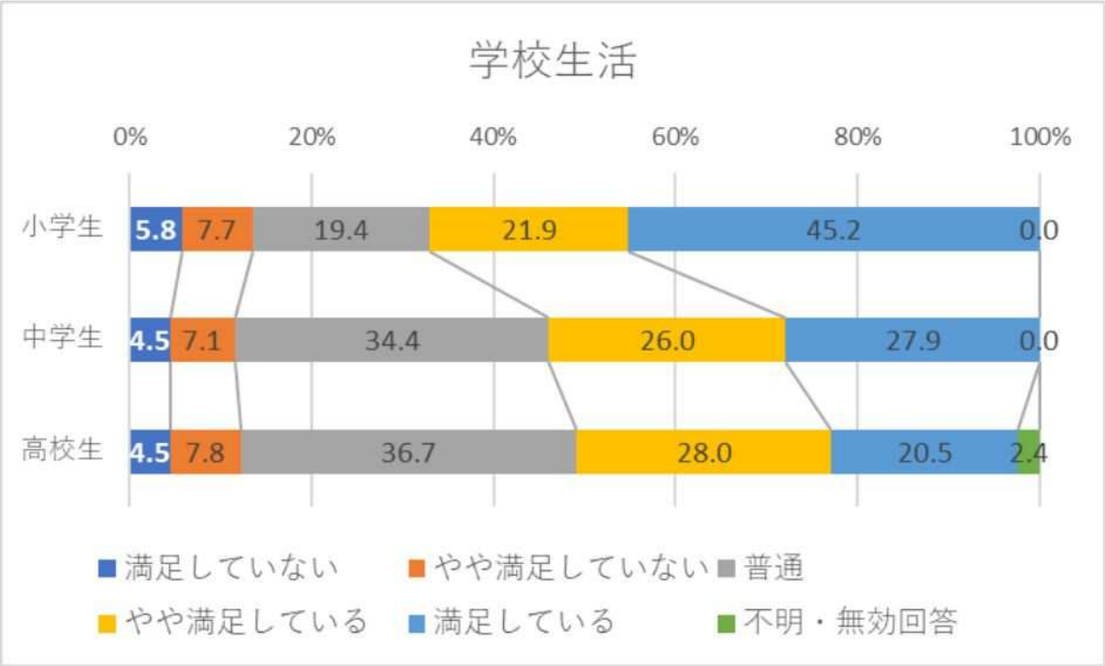


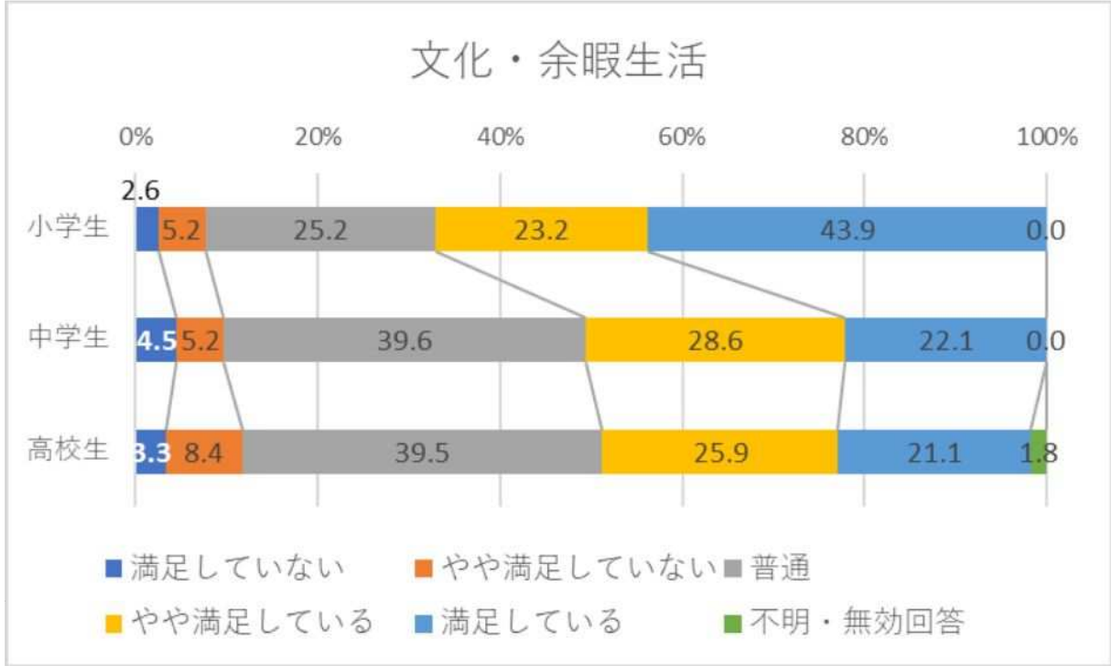
「自分自身」に関しては、小学生では6割超が「満足」と答えたが、成長とともにその割合は減少し、「不満足」の回答が増加している。
「家庭生活」に関しては、小学生では7割超が「満足」と答えたが、中学生の段階で「満足」の回答が急減し「不満足」の回答が微増している。
いずれも項目も中学生と高校生では回答結果に大きな違いは見られず、小学生→中学生の段階の変化が目立つ結果であった。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

生活や自分自身等への満足度②

小学生・中学生・高校生それぞれに対して生活や自分自身等への満足度を尋ねた。





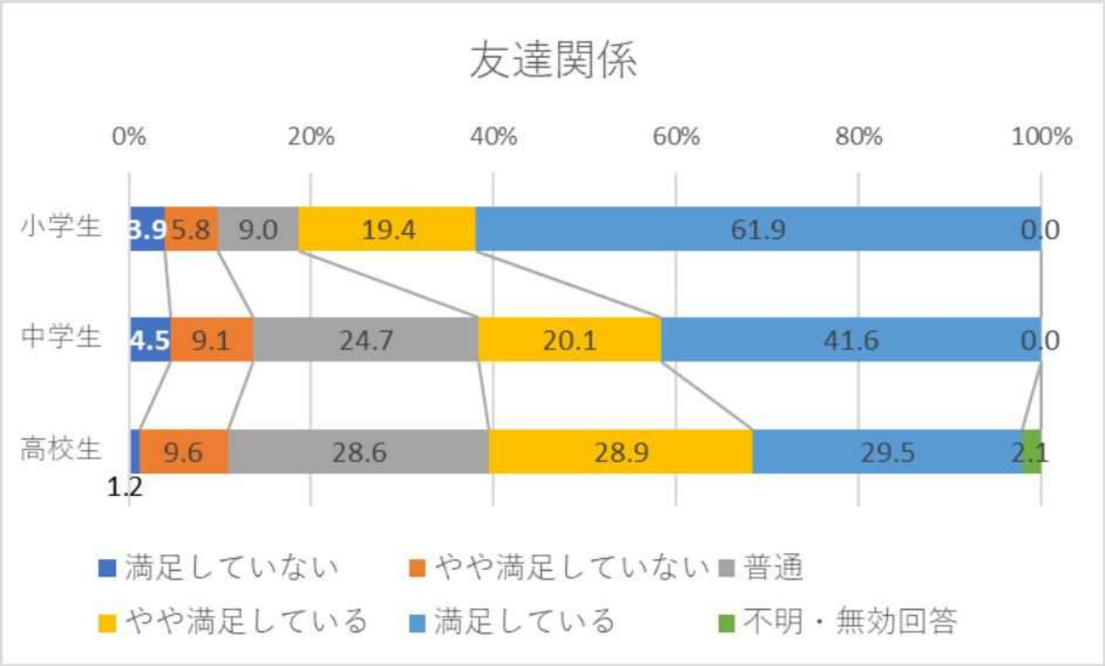
※文化・余暇生活は学校外での遊びや趣味、創作・スポーツ活動等と定義した

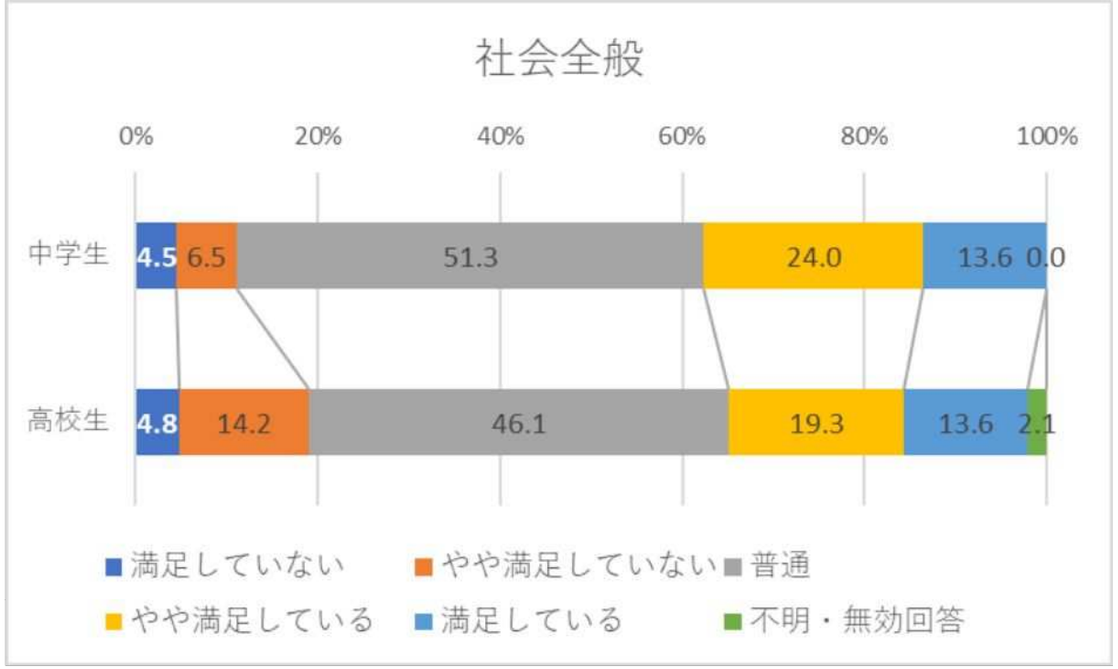
「学校生活」に関しては、小学生では7割近くが「満足」と答えたが、成長とともにその割合は減少している。他方、「不満足」の回答はどの年代も同じ程度であった。
「文化・余暇生活」に関しては、小学生では7割超が「満足」と答えたが、中学生の段階で「満足」の回答が急減し、年代を追うごとに「不満足」の回答が微増している。
いずれも項目も中学生と高校生では回答結果に大きな違いは見られず、小学生→中学生の段階の変化が目立つ結果であった。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

生活や自分自身等への満足度③

小学生・中学生・高校生それぞれに対して生活や自分自身等への満足度を尋ねた。





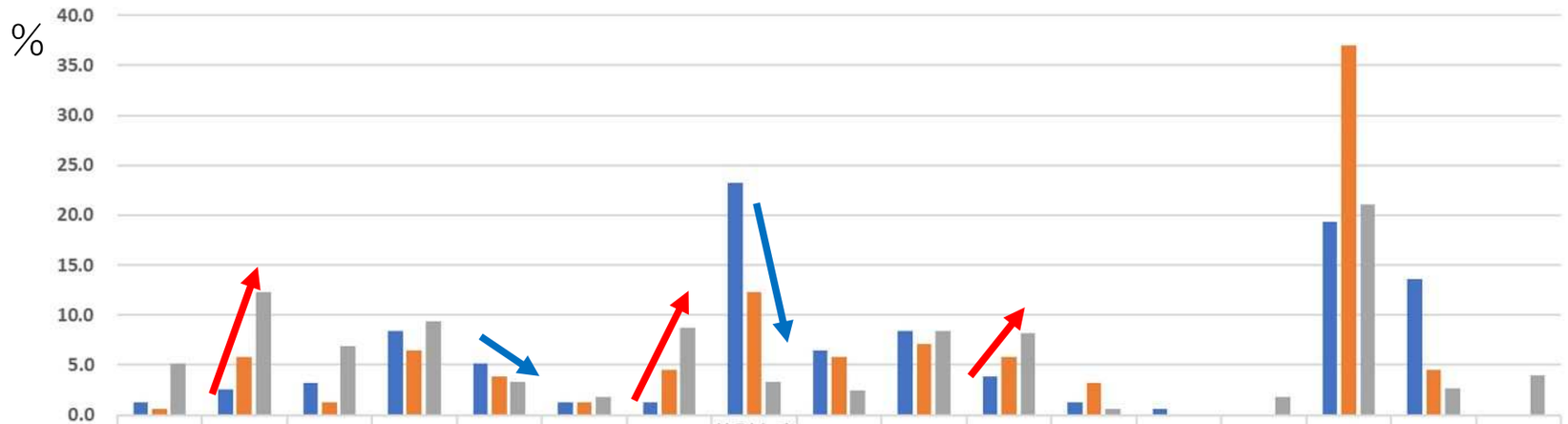
※設問の性質上、本項目のみ中学生以上に限定して尋ねた。

「学校生活」に関しては、小学生では8割超が「満足」と答えたが、中学生になると「普通」の急増し、満足度の低下と不満足度の上昇が見受けられる。高校生になると「不満足」の割合は減少した。
「社会全般」に関しては、中学生・高校生ともに半数近くが「普通」としたが、高校生になると「不満足」の割合は増加した。同時に「満足している」とはっきり答えた方は中学生と高校生で同程度おり、個人によって社会への捉え方に異なりがあることが見受けられた。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

将来就きたい仕事

「将来どんな仕事に就きたいか」を小学生・中学生・高校生それぞれに尋ねた。
選択肢から１つ選んでもらい、設問ごとの選択割合をグラフに示した。



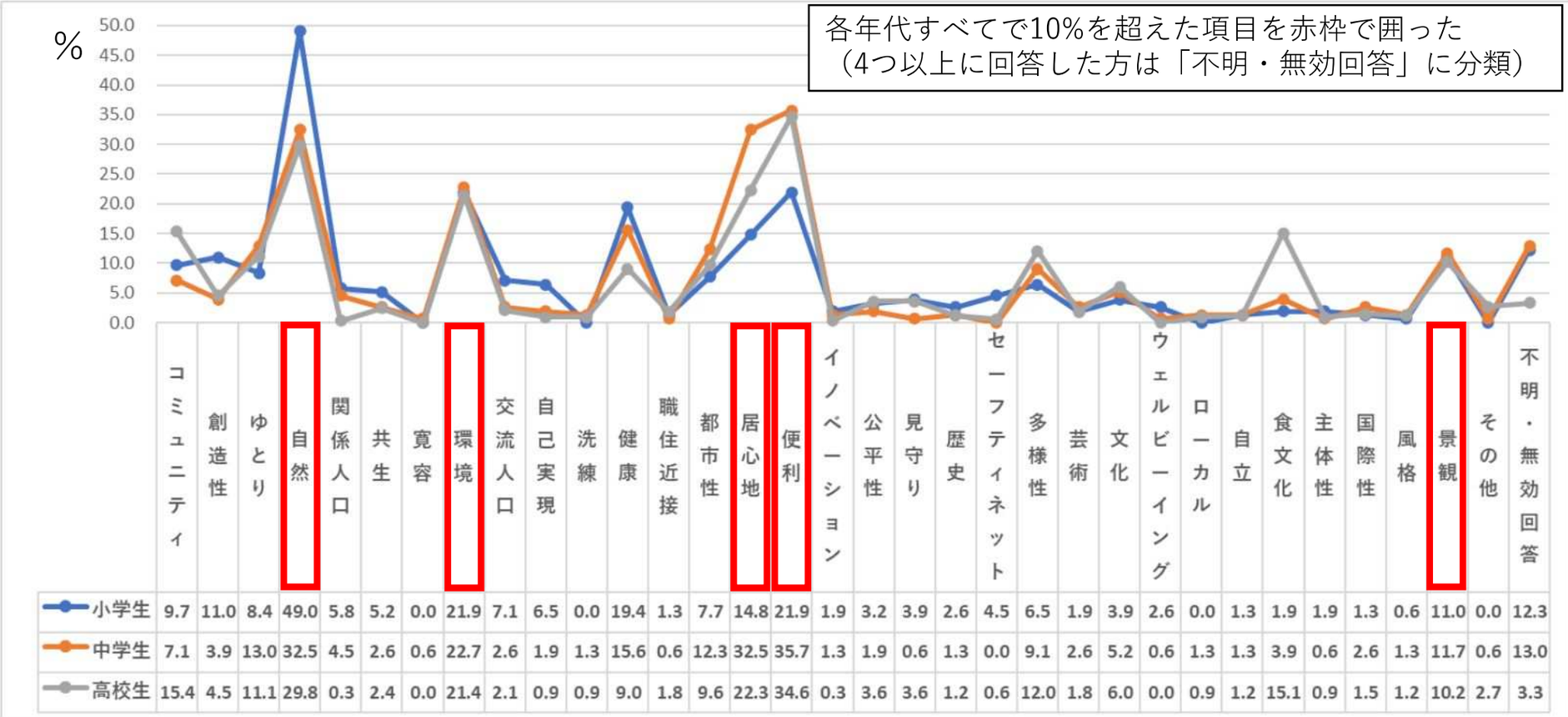
	農林漁業	専門的な知識・技術が必要な職業（研究者、技師など）	商店・飲食店・工場などの経営者	職人（大工、料理人、美容師など）	特別な資格が必要な職業（医師、弁護士、会計士など）	製造業・建設業	販売・サービス（商業・飲食施設・ホテルなど）	特別な才能を生かす仕事（スポーツ選手、芸能人、デザイナー等）	会社員（事務職、営業職、経営など）	医療・福祉関係（看護師・保育士など）	公務員（町職員、教師、消防士など）	情報関係（ソフトウェア開発など）	政治家（町長、議員など）	専業主婦・主夫	わからない	その他	不明・無効回答
小学生	1.3	2.6	3.2	8.4	5.2	1.3	1.3	23.2	6.5	8.4	3.9	1.3	0.6	0.0	19.4	13.5	0.0
中学生	0.6	5.8	1.3	6.5	3.9	1.3	4.5	12.3	5.8	7.1	5.8	3.2	0.0	0.0	37.0	4.5	0.0
高校生	5.1	12.3	6.9	9.3	3.3	1.8	8.7	3.3	2.4	8.4	8.1	0.6	0.0	1.8	21.1	2.7	3.9

小学生は「特別な才能を生かす仕事（スポーツ選手等）」が2割弱で最も多く、「わからない」が続いた。
中学生は「わからない」が3割強で最も多く、「特別な才能を生かす仕事（スポーツ選手等）」が続いた。
高校生は「わからない」が2割弱で最も多く、「専門的な知識・技術が必要な職業（研究者等）」が続いた。
いずれの年代も「わからない」とする方が一定数いるものの、成長とともに自身の将来について現実的に考えるようになる様子が見受けられた。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

開成町がどんな町になってほしいか

「まちづくりで重視するキーワード」を3つまでの複数選択で
小学生・中学生・高校生それぞれに尋ねた



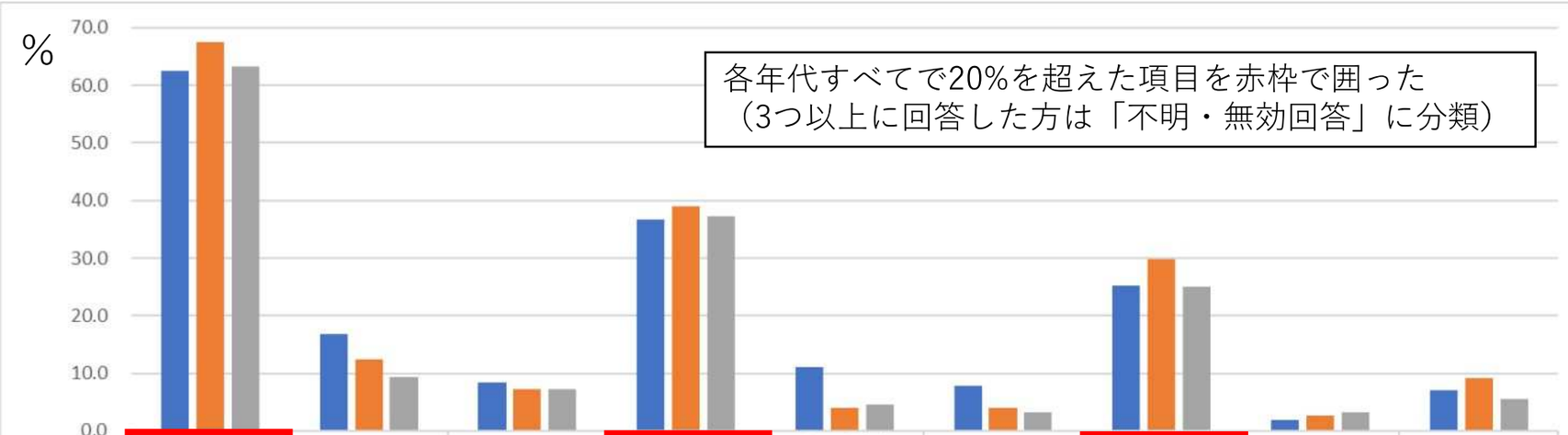
	コミュニティ	創造性	ゆとり	自然	関係人口	共生	寛容	環境	交流人口	自己実現	洗練	健康	職住近接	都市性	居心地	便利	イノベーション	公平性	見守り	歴史	セーフティネット	多様性	芸術	文化	ウェルビーイング	ローカル	自立	食文化	主体性	国際性	風格	景観	その他	不明・無効回答
小学生	9.7	11.0	8.4	49.0	5.8	5.2	0.0	21.9	7.1	6.5	0.0	19.4	1.3	7.7	14.8	21.9	1.9	3.2	3.9	2.6	4.5	6.5	1.9	3.9	2.6	0.0	1.3	1.9	1.9	1.3	0.6	11.0	0.0	12.3
中学生	7.1	3.9	13.0	32.5	4.5	2.6	0.6	22.7	2.6	1.9	1.3	15.6	0.6	12.3	32.5	35.7	1.3	1.9	0.6	1.3	0.0	9.1	2.6	5.2	0.6	1.3	1.3	3.9	0.6	2.6	1.3	11.7	0.6	13.0
高校生	15.4	4.5	11.1	29.8	0.3	2.4	0.0	21.4	2.1	0.9	0.9	9.0	1.8	9.6	22.3	34.6	0.3	3.6	3.6	1.2	0.6	12.0	1.8	6.0	0.0	0.9	1.2	15.1	0.9	1.5	1.2	10.2	2.7	3.3

「自然」「環境」「居心地」「便利」「景観」の5項目をすべての年代で回答者の1割以上が選択している結果になった。特に「自然」や「便利」は多くの年代で3割を超えており、開成町のまちづくりにおいて特に重視している様子が見受けられた。回答者が選択するキーワードには【すでに町の強みになって将来も失いたくないもの】と【（今は足りないが）今後充実させてほしいもの】の2つの解釈があると考えられる。この結果は「田舎モダン」という言葉に形容されるように開成町の強みである自然環境や利便性を今後も維持・発展させてほしいという回答者の想いが表れているといえるのではないか。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

若者のためのまちづくりに必要なこと

「若者や学生のためのまちづくりで必要だと思うこと」を
2つまでの複数選択で小学生・中学生・高校生それぞれに尋ねた



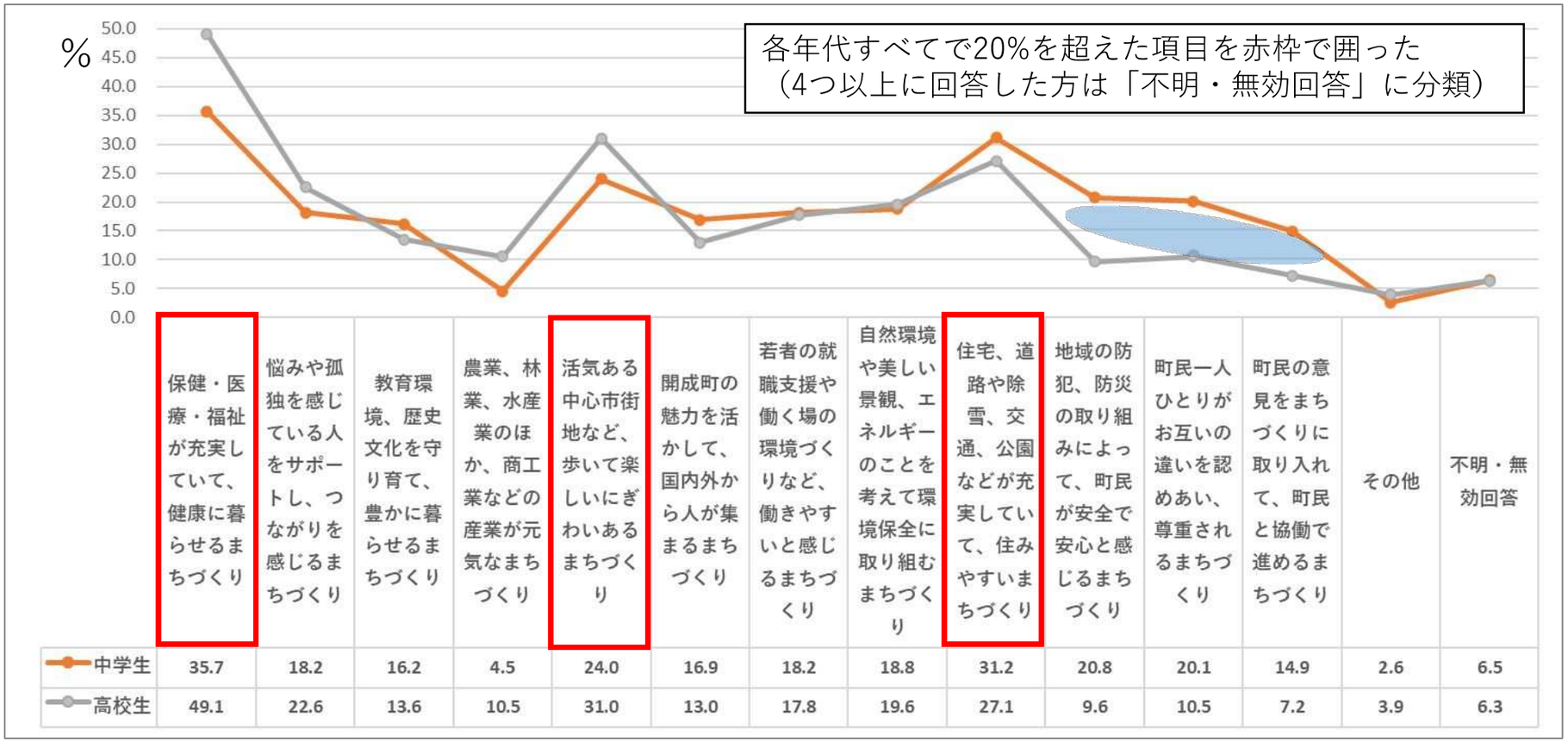
	友達同士で話したり、遊んだりできる居場所を増やす	地域でスポーツや趣味のクラブ活動、ボランティアなどの機会を充実する	地域でいろんな職業体験ができる機会や大人の話を聞く機会を増やす	祭りや行事、イベントなどの体験機会を増やす	子どもが中心のキャンプや通学合宿（集会所などでの合宿）などの機会を増やす	電話やメール、面談など、何でも相談できる機会や場を充実する	通学や町の施設を利用しやすいよう、交通機関を確保する	その他	不明・無効回答
小学生	62.6	16.8	8.4	36.8	11.0	7.7	25.2	1.9	7.1
中学生	67.5	12.3	7.1	39.0	3.9	3.9	29.9	2.6	9.1
高校生	63.3	9.3	7.2	37.3	4.5	3.3	25.0	3.3	5.4

「友達同士で話したり、遊んだりできる居場所を増やす」「祭りや行事、イベントなどの体験機会を増やす」「通学や町の施設を利用しやすいよう、交通機関を確保する」の3項目をすべての年代で回答者の2割以上が選択していた。特に「話したり遊んだりできる居場所」はすべての年代で6割以上が回答しており、重要度が高いことが見受けられた。回答者はコロナ禍によってかつて日常にあった学校行事をはじめとする数々のイベント等への参加が叶わなかった経験を有する世代である。この結果は学生間で親交を深めたり新たな経験を得られる「場」を求める声の大きさが表れているといえるのではないか。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

自分が町長になったら取り組みたいこと

「自分が町長になったら取り組みたいまちづくり」を
3つまでの複数選択で中学生・高校生にそれぞれに尋ねた



	保健・医療・福祉が充実していて、健康に暮らせるまちづくり	悩みや孤独を感じている人をサポートし、つながりを感じるまちづくり	教育環境、歴史文化を守り育て、豊かに暮らせるまちづくり	農業、林業、水産業のほか、商工業などの産業が元気なまちづくり	活気ある中心市街地など、歩いて楽しいにぎわいあるまちづくり	開成町の魅力を活かして、国内外から人が集まるまちづくり	若者の就職支援や働く場の環境づくりなど、働きやすいと感じるまちづくり	自然環境や美しい景観、エネルギーのことを考えて環境保全に取り組むまちづくり	住宅、道路や除雪、交通、公園などが充実していて、住みやすいまちづくり	地域の防犯、防災の取り組みによって、町民が安全で安心と感じるまちづくり	町民一人ひとりがお互いの違いを認めあい、尊重されるまちづくり	町民の意見をまちづくりに取り入れて、町民と協働で進めるまちづくり	その他	不明・無効回答
中学生	35.7	18.2	16.2	4.5	24.0	16.9	18.2	18.8	31.2	20.8	20.1	14.9	2.6	6.5
高校生	49.1	22.6	13.6	10.5	31.0	13.0	17.8	19.6	27.1	9.6	10.5	7.2	3.9	6.3

「保健・医療・福祉が充実していて健康に暮らせるまちづくり」「活気ある中心市街地など、歩いて楽しいにぎわいあるまちづくり」「住宅、道路や除雪、交通、公園などが充実していて、住みやすいまちづくり」の3項目をすべての年代で回答者の2割以上が選択していた。また、中学生と高校生では重視する項目に若干のギャップがあることも確認できた。中学生では一定の回答者が「安心・安全」「相互理解」等を取り組みたいこととしているが、高校生になると「保健・医療・福祉」「中心市街地活性化」等といった日々の生活に直結するトピックを重視する傾向が高まっていると見受けられる。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

【総評】アンケート結果から読み取れること

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

町への愛着や定住意欲を高める要素はなにか？

「開成町への愛着」「定住意向」の結果をクロスし、以下の４グループに分類した。（設問の都合、小中のみ）

「分からない」「その他」の選択はここではネガティブに分類した。

定住意欲**あり**

町への愛着**なし**

町への愛着**あり**

定住意欲**なし**

浮動層 **開成町に愛着はないが住み続けたいと思う人** **（17名）**	**開成町ファン層** **開成町に愛着がありずっと住み続けたい人** **（114名）**
流出見込層 **開成町に愛着はなく住み続けたいとも思わない人** **（61名）**	**隠れ流出層** **開成町に愛着はあるが住み続けたいとは思わない人** **（117名）**

町の機能に満足している可能性。どういった機能に満足しているかを分析することで町の強みが見える。優先度は低い。

地域リーダーとなることが期待愛着と定住意欲を高める要因は何かを分析することで他の層への政策に活かす。
優先度と重要度は高い。

愛着と定住意欲を低下させる要因を分析することで、町の弱みが見える。優先度は低い。

住み続けたくない要因は何か不満足要因を探ることが必要。町へのロイヤルティは高い層なため、定住意欲を向上させる施策の効果は他の層より高い。
重要度と優先度は高い。

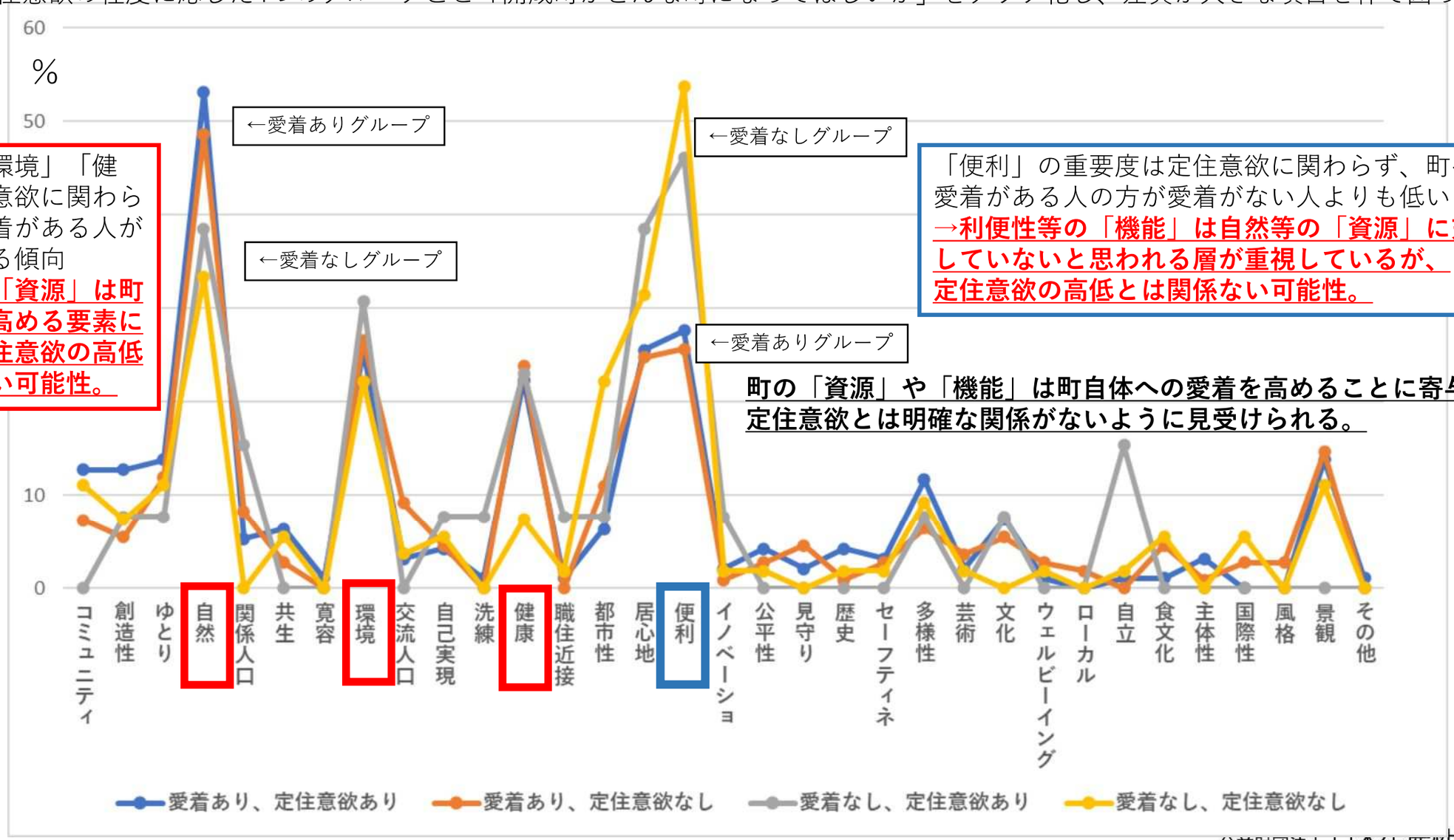
次のページでは「開成町への愛着」「定住意向」への回答をグループ別に整理し、
開成町への愛着や定住意向を高める要素を検討した。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

町への愛着を高める要素として考えられること

愛着と定住意欲の程度に応じた4つのグループごと「開成町がどんな町になってほしいか」をグラフ化し、差異が大きな項目を枠で囲った。

「自然」「環境」「健康」は定住意欲に関わらず町への愛着がある人が一層重視する傾向
→自然等の「資源」は町への愛着を高める要素にはなるが定住意欲の高低とは関係ない可能性。



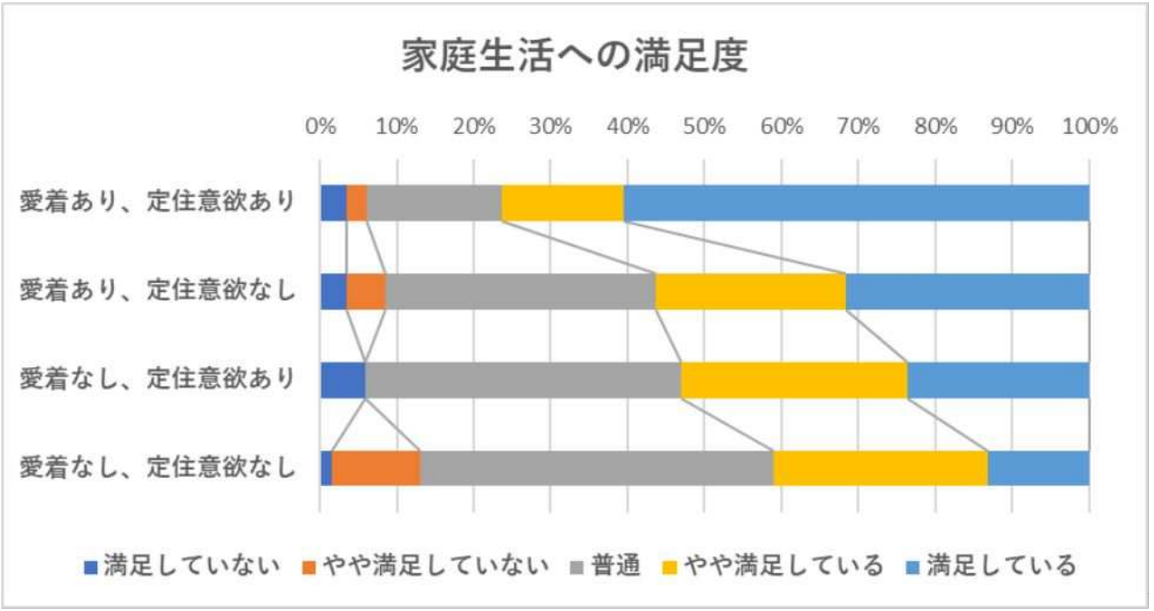
「便利」の重要度は定住意欲に関わらず、町への愛着がある人の方が愛着がない人よりも低い
→利便性等の「機能」は自然等の「資源」に充足していないと思われる層が重視しているが、定住意欲の高低とは関係ない可能性。

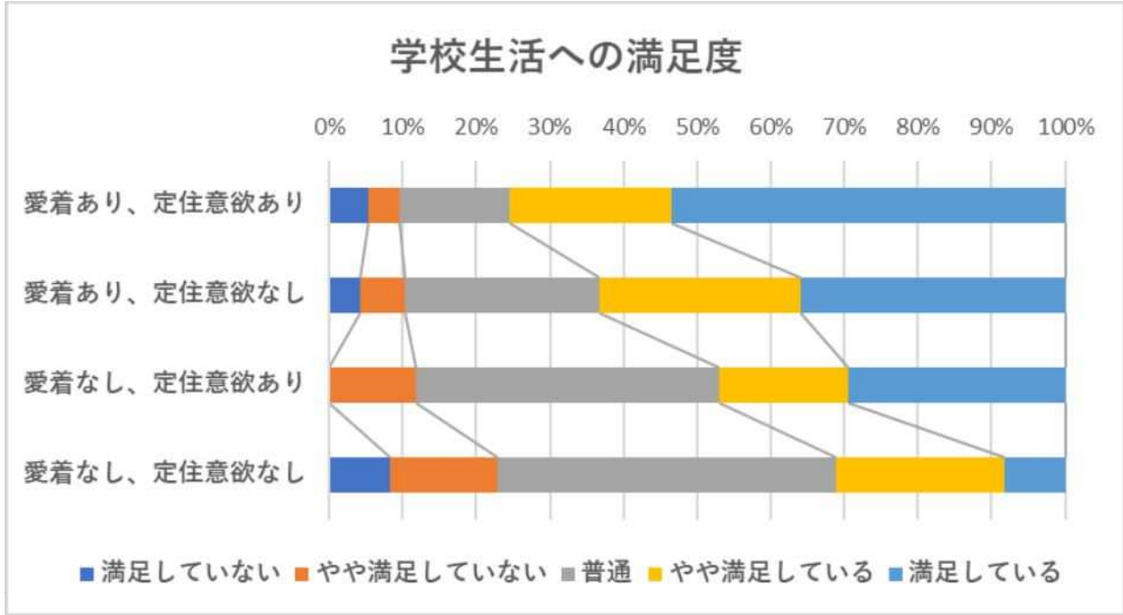
町の「資源」や「機能」は町自体への愛着を高めることに寄与するが、定住意欲とは明確な関係がないように見受けられる。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

定住意欲を高める要素として考えられること

今回のアンケート設問の中で唯一「定住意欲」によって結果に差異が生じたのはP.9で示した生活や自分自身における満足度であった。代表的な項目として「家庭生活への満足度」と「学校生活への満足度」の結果を以下に示す。





「家庭生活への満足度」「学校生活への満足度」ともに、町への愛着有無に関わらず定住意欲有無によって「満足している」と答える割合に大きな差があった。
特に家庭生活は差異が大きく、「愛着あり、定住意欲あり」では6割近くが「満足している」と回答したが、「愛着あり、定住意欲なし」ではその割合は3割近く減少した。「愛着なし、定住意欲なし」に至っては「満足している」の割合は1割弱に留まった。**この結果からは、小・中学生にとって町に定住意欲は町の資源や機能よりも、日ごろの家庭や学校での人間関係等への満足度との関連性が強いといえるだろう。**

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.

まとめ　―誰もが住みやすく、住み続けたくなる開成町にむけた提言

今回のアンケート結果から読み取った「誰もが住みやすく住み続けたくなる開成町」にむけた提言を以下に示す。

1．豊かな自然資源を守り、利便性も高めていく「環境と経済両輪」でのまちづくり

年代を問わず多くの回答者が今後のまちづくりで「自然」を重視するように、開成町への愛着を高める最大の要素はその豊かな自然環境にあると考えられる。他方、中高生を中心に利便性の向上を求める声が多くあるように産業振興や交通利便の向上等に取り組むことも雇用や付加価値を創出して地域の活力を維持・向上させるうえで重要となる。開成町のまちづくりは自然環境の保全と経済産業の活性化の両輪で進めることが要になるといえるだろう。

2．子どもたちが生き生きと新たな発見や学びを得られる「場」の充実

「若者のためのまちづくり」で多くの回答者が友達と遊べる居場所づくりや体験機会の充実を求めているように、コロナ禍で失われた子どもたちが生き生きと新たな発見や学びを得られる「場」の充実が必要だと考えられる。こうした「場」は人間関係を豊かにしたり将来を拓く機会となり、子どもたちに開成町に住み続けたくなる想いを育むことにつながるだろう。

3．地域や社会全体で「人」を支え、育てていく風土づくりの促進

学校生活や家庭生活への満足度が定住意欲と相関があると見受けられた。少子高齢化社会において地域の持続可能性を高めるためには、地域や社会のなかで誰ひとり取り残されず、各個人が生き生きと活躍することが不可欠となる。これは直接まちづくりに携わる方だけでなく、地域全体で広く捉えるべきテーマといえる。魅力ある開成町を次の世代に繋げていくためにも、地域や社会全体で「人」を支え、育てていく風土づくりが必要ではないか。

Copyright © 2023 Japan Productivity Center All Rights Reserved.